

# 令和2年度高知県子ども読書活動推進協議会 議事概要

日時 令和2年12月4日(金)  
10:00~12:00

場所 オーテピア高知図書館4階 研修室

## 【出席者】

(委員) 加藤 勉 (委員長)、上岡 美保、花房 果子、塚地 和久、西村 玉子、武市 佐和子

(事務局) 幼保支援課 (主任指導主事 山崎 理恵)、  
小中学校課 (チーフ 井上 美貴、指導主事 中屋 和佳)、高等学校課 (指導主事 池上 真美)、  
県立図書館 (専門企画員 山重 壮一)、生涯学習課 (課長 三觜 美香、課長補佐 清川 真史、  
チーフ 上村 剛史、主査 山下 祐貴)

## (1) 平成29年度から令和元年度までの取組について

### 【事務局からの説明】

- ・第三次計画における具体的な取組に対する「評価」・「実績」
- ・指標の達成状況の現状と評価

### ○上岡委員

- ・本校では、読書活動は個人の楽しみであるものの、どのようにして仲間と共有し、楽しみとしていくかも課題だと思われる。
- ・読書活動を通じて生徒に何を求めているのか。高校生になると、何かを知るための読書にもなっているというのが事実であり、読書を楽しむことと学習は一緒でもいいものだと思う。
- ・GIGA スクール構想やICTの整備が進んでおり、そことの兼ね合いなくして、読書活動の推進は難しい。コロナ禍やICT、GIGA スクール構想の中で、読書をどう位置づけていくのが課題である。

### ○花房委員

- ・若年層の保護者の方への読み聞かせの大切さが伝わっていないところが課題。
- ・教育センターの保育士さん向けの講座をオンデマンド配信させてもらった。ネット環境等も十分でないご家庭もあると思うが、コロナ禍ではオンラインでの研修や講座で絵本の紹介や実際の読み方等伝えていくこともしていかなければいけない。
- ・子どもたちは読書よりも、SNSや動画、オンラインゲームでコミュニケーションを取ることが楽しくなってしまう。動画等の目先の楽しさに向いているので、本を読むことの面白さ、読書に何を求めるかというところを周りの大人が伝えていくことが大事だと感じている。
- ・これからは、本を読む子は読む、読まない子は読まないという差がより広がると感じている。そこをいかに周りの大人が、読書から離れないようにしていくかを考えていくことが重要。

### ○塚地委員

- ・本年度から高知県内のほぼ全中学生に、週に1回、「Peratto (ぺらっと)」というニュースレターを無料で配布することにした。中学生になると新聞を読まない率が拡大し読書体験が少なくなるため、活字に慣れてほしいということで始めた。「ぺらっと」を作るとき、絶対に届けるんだ、習慣にせよらうんだという意志のもと、多くの皆さんの協力を得て、中学校に直接届けることになり、多様な活用をしていただいている。
- ・基本目標において「3. あらゆる機会のあらゆる場所において読書ができる環境をつくる」が整備されることによって、基本目標1、2が発展していく。基本目標3では子どもの読書活動を推進する人材の育成が課題になる。
- ・中、高、大学生で休校中にどういう媒体に接した人が多いかを調べたデータでは、スマートフォンに触れる機会が増えてきたという人は6~7割。マンガ、雑誌も含めて本に触れることが増えたという人は2割もいなかった。
- ・子どもたちの身近な場所では、学校の中に司書教員や図書館職員等きちんと読書のことも話ができるプロがいるため、そうした面をしっかりと整理していただきたい。
- ・高校生と就学前の子どもたちの読み聞かせを通じた触れ合いを特に進めていただきたい。自分が父母になった時、子どもたちに本を読むことは良いことだということを、保護者になったときに突然言われるのではなく、小・中・

高校時代から順番に知っておくというのは大切ではないか。

### ○西村委員

- ・各園ともに絵本と出会う機会は保育教育の中で入れており、親向けの図書として、育児の本、お弁当の本等も貸し出しをする園もあった。また、絵本の読み聞かせを地域のボランティアの方がしてくださる園もかなり多かった。
- ・昨年度までは、職員研修に講師を招いて、絵本の読み聞かせ、絵本の良さ、選び方、読み方等の研修もしていたが、今年度、来年度は少なくなる。
- ・親子の読み聞かせを誰が行ったかというカードを作り、家庭にお渡ししているが、実施できていない家庭がどの園にも数件かあるようで、親が仕事で忙しいところがあるのではないか。
- ・タブレットを器用に使う子どもが増えてきたという話も出ているが、親が自分の声で、膝に抱いて、コミュニケーションを取りながら読んでもらいたい。保育者も読み方や絵本に対して季節に合ったもの等を選んで、子どもの感性を育てていきたい。

### ○武市委員

- ・公共図書館ではそもそも関心がある方しか来られないこともあり、毎日子どもが行く保育所・幼稚園、学校の図書館の充実を図っていただきたい。
- ・学校における組織的・計画的に学校図書館を利用した授業について、以前と比べて学校に学校司書や図書館支援員の方たちが入り、連携できるよう窓口になってくれているが、先生が当日に本を求められることも度々ある。学校図書館図書標準の達成率は調査中であるが、学校図書館で本がなければ成り立たない。重点的に学校図書館の充実を考えていただきたい。

### ○加藤委員長

- ・「読書」とは何かと考えると「読む本、読みたい本がある」、「読める場所がある」、そして一番大事な「読書のお手本がある」こと。
- ・反省すべきこととして、「読ませたい本」に議論が傾いていないか。
- ・子どもたちは何が読みたいのか、なぜ読書をしないのかといった基礎的な調査ができないか。読まない理由と読む理由のギャップをある程度捉えた枠組みの見直しが必要。
- ・アンケートの実施や様々な公表されている資料等から、ディスカッションをするための基礎的なデータを見つけ、ベースにしてほしい。
- ・担当される方をできる限り年齢の若い方をお願いしたい。デジタル化・オンライン化を経験して育ってきた世代が入っていないと、今の子どもたちの感覚に近い感覚を持ってない。
- ・この計画に使える独立した予算を何とか確保していただきたい。また、学校教育においても図書費の増額という方向からも考えていくことが必要ではないか。

## (2) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う子どもの読書状況について

### ○上岡委員

- ・コロナ禍の拡大に伴い、読書活動と電子媒体とのつながりを考えていく必要がある。
- ・読書とは何かというと、自分と向き合う時間であったり、他者と共有してつながることもできるものだと思うが、そうした読書の楽しみを生徒は実感できないままている。その楽しみをどうやって掘り起こしていくか、気づかせるかというのが、学校の役割の一つではないか。

### ○花房委員

- ・絵本をたくさん読んで、子どもと触れ合う機会が多くなったというご家庭もある一方で、仕事等も忙しくなり子どもと触れ合う時間が少なくなったというご家庭もあると思う。
- ・空き時間に読書をするより、スマートフォンで何か調べたり、動画を見たりする方が勝ってしまう。大人が読んで面白かったと伝えることが非常に大事。

### ○塚地委員

- ・ウィズコロナ・アフターコロナと言われる時代の特徴として、ICTが進むこと、人と人とのつながりを分断して

いるということが挙げられる。

- ・人とダイレクトに触れ合えない時代だからこそ、その意識が強まる時なのではないかという見方をしている。
- ・スマートフォンの所有率も高校生であれば9割以上、中学生ぐらいたと6割、中学1年生に至っては大体3～4割ぐらいかと言われているが、デジタルライブに特化した中学生はあまりいない。実際、通信アプリをたくさん使っているというだけで、一部の子どもたちが動画を見たり、ゲームをしているというのが、高知県の中学生とデジタルとの関係ではないか。
- ・小学生・中学生の読書に関しては従来どおり学校の図書室を充実させ、そこに本のプロがいるという方向をとっていただければ。

#### ○西村委員

- ・幼稚園・保育園等では、園児が絵本を選んで持って帰るということが多く、その中で絵本の大切さを親に知らせていくことが今できることかと思われる。
- ・親参加の研修は現状としてできる方法は何かと知恵を出し合いながら進めていけたら。

#### ○武市委員

- ・関心のない層に働きかけることのできるのは唯一ブックスタート事業であるが、今後、直接図書館職員が保護者に会って一人一人の方に声をかけられる貴重な場がなくなってしまうのではないかと恐れている。

#### ○加藤委員長

- ・コロナ禍の状況に対処しているのは、歴史・文学資料から過去の経験を引き継いでいるからこそ成り立っている。それらの知識をどうやって得られるかという読書である。文字化されたものを操る能力、自由にできる能力というのは人間のあるべき特徴であり、我々はそうした広い観点から「読書」を考える必要がある。
- ・感染者が非感染者に対して圧倒的に少ないことは必ず差別行動を生む。そういう差別をしないで事実を見るための基盤というのは、我々にすれば読書になり、教育の成果となる。加えて、フェイクを信じないことも、信用できる情報源としての本等を読むことを通じて得られる、リテラシーの一部だと思う。その方向性で子どもたちが幅広く、偏見のない、科学的な知識を読書によって得ることが必要。
- ・文字化されたものから情報を読み取り、なおかつ背景にある典型的な問題もしっかりと理解できる読書を目指す、そういう方向性が重要。
- ・生活の大きな変容、つまりデジタル化、リモート化という背景と連動してくるといのがここ数年だろうと思う。これに対して読書を基盤にどう考え、乗り切るかという時代を迎えつつある。

#### 【生涯学習課長あいさつ】